

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2015年11月16日〔当初、2020年12月10日〕まで（2011年3月18日設定）	
運用方針	<p>主として、純金マザーファンド受益証券および金産出国債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の取引所における金価格の値動きを反映する上場信託ならびに金産出国通貨建ての公社債を実質的な主要投資対象とし、金価格の値動きをとらえつつ、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。</p> <p>純金マザーファンド受益証券と金産出国債券マザーファンド受益証券への基本投資比率は40%と60%とします。</p> <p>マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。</p> <p>実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p>	
主要運用対象	ベビーファンド	純金マザーファンド受益証券および金産出国債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	純金マザーファンド	純金上場信託（現物国内保管型）受益証券を主要投資対象とします。
	金産出国債券マザーファンド	金産出国通貨建ての公社債を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	純金マザーファンド	外貨建資産への投資は行いません。
	金産出国債券マザーファンド	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	<p>経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定するものとし、原則として配当等収益等を中心に安定した分配をめざします。ただし、毎年6月・12月の計算期末には、安定分配相当額のほか、経費等控除後の配当等収益および売買益の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。なお、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p>	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。

償還報告書(全体版)

[繰上償還]

三菱UFJ ゴールド・インカム・プラス・ファンド (毎月決算型)

第51期（決算日：2015年7月10日）

第52期（決算日：2015年8月10日）

第53期（決算日：2015年9月10日）

第54期（決算日：2015年10月13日）

第55期（決算日：2015年11月10日）

信託終了日：2015年11月16日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「三菱UFJ ゴールド・インカム・プラス・ファンド(毎月決算型)」は、約款の規定に基づき、先般ご案内申し上げました予定通り、11月16日に繰り上げて償還させていただきました。ここに謹んで運用経過と償還内容をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

三菱UFJ投信株式会社は2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、「三菱UFJ国際投信株式会社」となりました。



三菱UFJ国際投信

MUFG

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
URL:<http://www.am.mufig.jp/>

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル

TEL. 0120-151034

(9:00~17:00、土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

◆ 目 次

三菱UFJ ゴールド・インカム・プラス・ファンド(毎月決算型)のご報告

◇最近30期の運用実績	1
◇当作成期中の基準価額と市況等の推移	2
◇運用経過	3
◇1万口当たりの費用明細	11
◇売買及び取引の状況	11
◇利害関係人との取引状況等	12
◇組入資産の明細	13
◇投資信託財産の構成	13
◇資産、負債、元本及び基準（償還）価額の状況	14
◇損益の状況	15
◇投資信託財産運用総括表	16
◇分配金のお知らせ	18
◇償還金のお知らせ	18
◇お知らせ	18

マザーファンドのご報告

◇純金マザーファンド	19
◇金産出国債券マザーファンド	24

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近30期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	税金	込配	み金	期騰	落	中率	債組入比率	債券先物比率	債券券率	受益証券発行信託の受益証券比率	純資産額
27期(2013年7月10日)	9,971			20			△1.2	55.7	—	—	39.1	768
28期(2013年8月12日)	9,839			20			△1.1	55.0	—	—	40.2	770
29期(2013年9月10日)	10,171			20			3.6	56.4	—	—	39.0	755
30期(2013年10月10日)	9,948			20			△2.0	56.8	—	—	39.4	710
31期(2013年11月11日)	9,837			20			△0.9	56.5	—	—	39.6	674
32期(2013年12月10日)	10,070			20			2.6	56.0	—	—	39.6	669
33期(2014年1月10日)	10,037			20			△0.1	54.5	—	—	40.7	606
34期(2014年2月10日)	9,629			20			△3.9	53.6	—	—	40.0	489
35期(2014年3月10日)	9,757			20			1.5	54.1	—	—	39.9	494
36期(2014年4月10日)	9,829			20			0.9	55.6	—	—	39.4	482
37期(2014年5月12日)	9,800			20			△0.1	56.6	—	—	38.8	461
38期(2014年6月10日)	9,811			20			0.3	55.9	—	—	39.2	455
39期(2014年7月10日)	9,949			20			1.6	55.1	—	—	39.9	455
40期(2014年8月11日)	9,610			20			△3.2	54.7	—	—	40.4	430
41期(2014年9月10日)	9,771			20			1.9	56.5	—	—	39.8	403
42期(2014年10月10日)	9,542			20			△2.1	56.8	—	—	39.9	371
43期(2014年11月10日)	9,430			20			△1.0	55.6	—	—	40.6	362
44期(2014年12月10日)	9,331			20			△0.8	53.5	—	—	41.4	346
45期(2015年1月13日)	8,743			20			△6.1	50.9	—	—	40.9	326
46期(2015年2月10日)	8,986			20			3.0	58.2	—	—	38.9	327
47期(2015年3月10日)	9,046			20			0.9	57.7	—	—	38.9	326
48期(2015年4月10日)	9,830			20			8.9	58.2	—	—	37.6	342
49期(2015年5月11日)	9,853			20			0.4	56.8	—	—	38.7	339
50期(2015年6月10日)	9,672			20			△1.6	55.8	—	—	39.3	322
51期(2015年7月10日)	9,394			20			△2.7	56.1	—	—	40.1	309
52期(2015年8月10日)	9,085			20			△3.1	55.2	—	—	40.7	286
53期(2015年9月10日)	8,330			20			△8.1	55.4	—	—	40.0	252
54期(2015年10月13日)	8,966			20			7.9	55.8	—	—	39.6	245
55期(2015年11月10日)	8,723			0			△2.7	—	—	—	—	221
(償還時)	(償還価額)											
56期(2015年11月16日)	8,719.67			—			△0.0	—	—	—	—	216

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは、わが国の取引所における金価格の値動きを反映する上場信託ならびに金産出国通貨建ての公社債を実質的な主要投資対象とし、金価格の値動きをとらえつつ、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざしますが、特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」、「受益証券発行信託の受益証券比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決 算 期	年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	受 益 証 券 発 行 信 託 の 受 益 証 券 比 率
			騰 落 率	騰 落 率			
第51期	(期首) 2015年6月10日	円 銭 9,672	% -	% -	% 55.8	% -	% 39.3
	6月末	9,577	△1.0		55.8	-	39.7
	(期末) 2015年7月10日	9,414	△2.7		56.1	-	40.1
第52期	(期首) 2015年7月10日	9,394	-		56.1	-	40.1
	7月末	9,191	△2.2		56.4	-	39.8
	(期末) 2015年8月10日	9,105	△3.1		55.2	-	40.7
第53期	(期首) 2015年8月10日	9,085	-		55.2	-	40.7
	8月末	8,722	△4.0		54.3	-	39.1
	(期末) 2015年9月10日	8,350	△8.1		55.4	-	40.0
第54期	(期首) 2015年9月10日	8,330	-		55.4	-	40.0
	9月末	8,478	1.8		56.4	-	39.6
	(期末) 2015年10月13日	8,986	7.9		55.8	-	39.6
第55期	(期首) 2015年10月13日	8,966	-		55.8	-	39.6
	10月末	8,824	△1.6		-	-	39.4
	(期末) 2015年11月10日	8,723	△2.7		-	-	-
第56期	(期首) 2015年11月10日	8,723	-		-	-	-
	(償還時) 2015年11月16日	(償還価額) 8,719.67	△0.0		-	-	-

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み合わせますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」、「受益証券発行信託の受益証券比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率-売建比率。

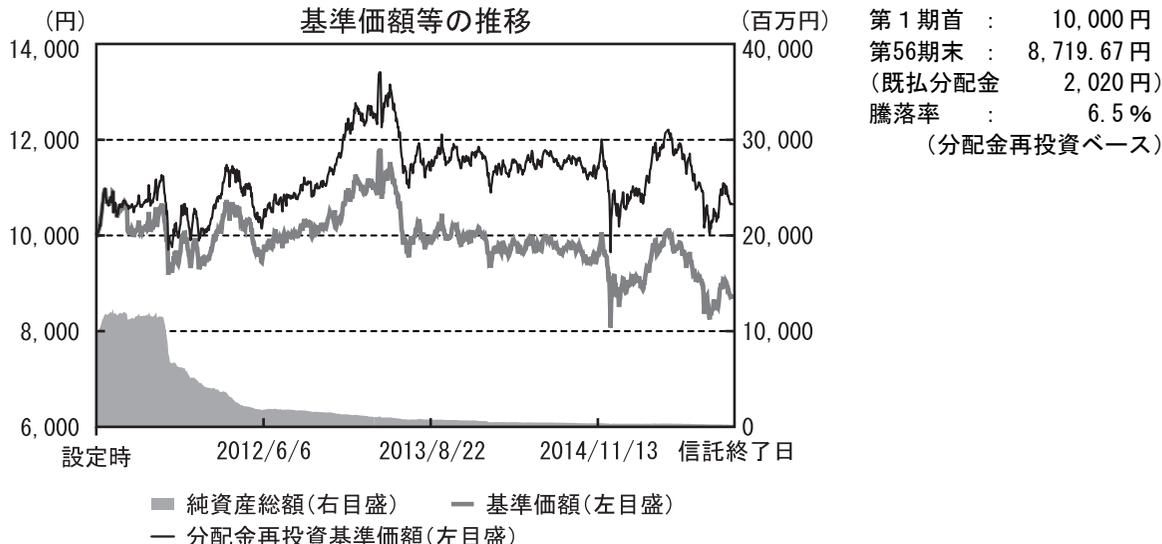
運用経過

設定来の基準価額等の推移について

（第1期～第56期：2011/3/18～2015/11/16）

基準価額の動き

償還価額は設定時に比べ6.5%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。



- ・ 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・ 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

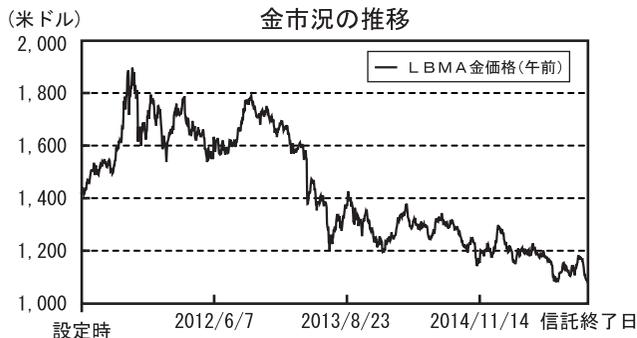
- ・ 為替市況が大幅な円安・ドル高となったことが、円ベースでの金価格の上昇要因となり、基準価額の上昇要因となりました。
- ・ 債券の利子収益を享受したことが、上昇要因となりました。

下落要因

- ・ 欧州債務危機が落ち着きを取り戻し、リスク資産を選好する動きが強まったことから安全資産である金需要が減少したことが、金価格の下落要因となり、基準価額の下落要因となりました。
- ・ 南アフリカランドやロシアルーブルが対円で下落（円高）したことは、下落要因となりました。

投資環境について

（第1期～第56期：2011/3/18～2015/11/16）



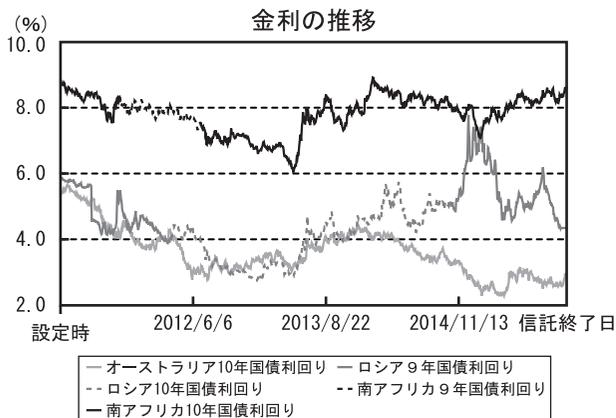
◎金市況

- ・ 設定時から2013年3月にかけては、米国の量的金融緩和への期待により資源価格全般が底堅い動きとなっていたことに加えて、欧州債務問題が続く中で安全資産である金需要は強く、「LBMA金価格（午前）」は高水準の状況となりました。
- ・ 4月から信託終了日までは、欧州債務問題がECB（欧州中央銀行）による各種対応策によって落ち着きを取り戻し、株式などのリスク資産を選好する動きが強まったことや米国での経済指標改善に伴う金利上昇懸念、量的緩和政策の段階的な打ち切りによって金需要が減少し「LBMA金価格（午前）」は下落基調となりました。



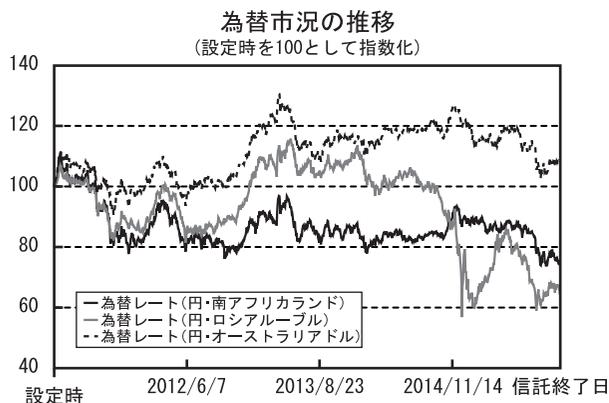
◎為替市況

- ・ 設定時から2012年9月にかけては、欧州債務問題が続く中、円高水準でのレンジ内推移となりました。
- ・ 10月からは日銀が量的緩和政策を強化したことや米国における政策金利引き上げ観測により日米の金利差が拡大するとの期待を背景に大幅な円安・ドル高となりました。



(注) 現地日付ベースで表示しております。

(注) 10年国債利回りが無い期間は、9年国債利回りを掲載しております。



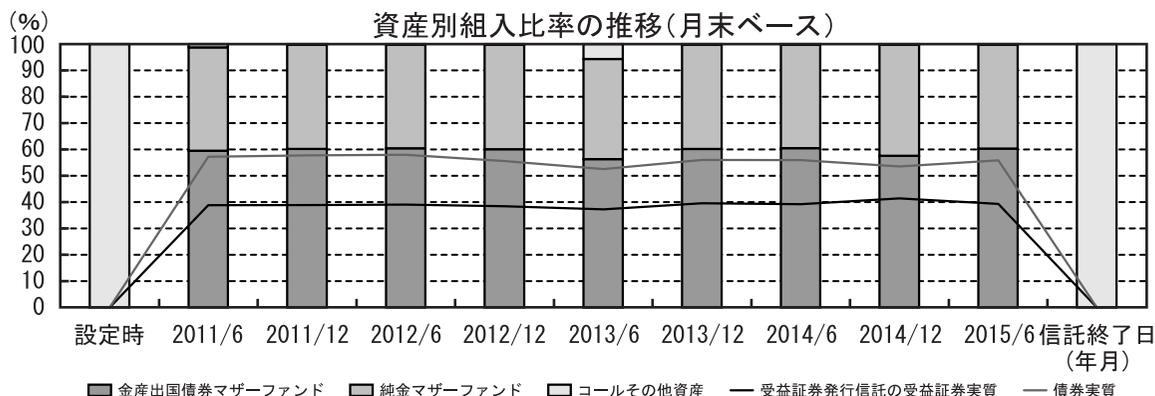
◎債券市況

- ・南アフリカおよびオーストラリアは組入期間中（南アフリカは全期間、オーストラリアは設定時～2013年6月）に金利が低下（債券価格は上昇）した一方で、ロシアは組入期間中（2013年6月～信託終了日）に金利が上昇しました。
- ・南アフリカでは、設定時から2013年半ばにかけて、世界経済の先行き懸念が強まりインフレ圧力の後退が明確になるなか、金利が低下しました。その後、信託終了日にかけては、FRB（米連邦準備制度理事会）の金融正常化の進展への思惑から過剰流動性の縮小に対する投資家の懸念もあり、金利は上昇基調となったものの、設定時と比較して金利は低い水準で償還を迎えました。オーストラリアでは、RBA（豪州連邦準備銀行）による断続的な利下げなどを背景に、金利が低下しました。ロシアでは、前記の過剰流動性縮小に対する投資家の懸念に加え、ウクライナ情勢の緊迫化などを受けて海外投資家が同国から資金を引き揚げるとの思惑などを背景に、組入を開始した2013年6月からは金利が上昇しました。

◎為替市況

- ・オーストラリアドルは組入期間中に対円で上昇（円安）した一方、南アフリカランドおよびロシアルーブルは組入期間中にそれぞれ対円で下落しました。
- ・設定時から2011年後半にかけて、欧州債務問題の悪化や世界的な景気減速懸念から株式市況が下落するなか、円が選好されやすい地合いとなり、南アフリカランドやオーストラリアドルは対円で下落しました。その後、オーストラリアドルは、組み入れから除外した2013年半ばにかけて、FRBの追加緩和と実施や日銀の追加緩和観測の高まりなどを背景に、対円で上昇しました。一方、資源価格が低迷し景気減速懸念が強まるなか南アフリカランドは対円で軟調に推移しました。ロシアルーブルは、2013年半ばの組み入れ開始後、ウクライナ情勢の悪化や2014年後半の原油価格の大幅下落などを受けて、対円で下落しました。

当該投資信託のポートフォリオについて



<三菱UFJ ゴールド・インカム・プラス・ファンド（毎月決算型）>

・資産配分は、ファンドの基本投資割合（純金マザーファンド40%、金産出国債券マザーファンド60%）に準じて運用を行いました。

◎運用状況

<第1作成期（第1期～第2期：設定時～2011年6月10日）>

基準価額は設定時に比べ6.3%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

<第2作成期（第3期～第8期：2011年6月11日～2011年12月12日）>

基準価額は作成期首に比べ2.6%（分配金再投資ベース）の下落となりました。

<第3作成期（第9期～第14期：2011年12月13日～2012年6月11日）>

基準価額は作成期首に比べ1.9%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

<第4作成期（第15期～第20期：2012年6月12日～2012年12月10日）>

基準価額は作成期首に比べ8.8%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

<第5作成期（第21期～第26期：2012年12月11日～2013年6月10日）>

基準価額は作成期首に比べ1.4%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

<第6作成期（第27期～第32期：2013年6月11日～2013年12月10日）>

基準価額は作成期首に比べ0.8%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

<第7作成期（第33期～第38期：2013年12月11日～2014年6月10日）>

基準価額は作成期首に比べ1.4%（分配金再投資ベース）の下落となりました。

<第8作成期（第39期～第44期：2014年6月11日～2014年12月10日）>

基準価額は作成期首に比べ3.7%（分配金再投資ベース）の下落となりました。

<第9作成期（第45期～第50期：2014年12月11日～2015年6月10日）>
 基準価額は作成期首に比べ5.0%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

<第10作成期（第51期～第56期：2015年6月11日～信託終了日）>
 償還価額は作成期首に比べ9.0%（分配金再投資ベース）の下落となりました。
 なお、第10作成期の詳細な内容は以下の通りです。

（内訳）

純金マザーファンド	△2.6%程度
金産出国債券マザーファンド	△6.0%程度
その他（信託報酬等）	△0.4%程度

<純金マザーファンド>
 償還価額は設定時に比べ12.4%の上昇となりました。

投資対象である純金上場信託「金の果実」の組入比率は、設定時から概ね高水準を維持しました。

金価格の下落がマイナスに影響したものの、大幅な円安・ドル高の進展によって、円ベースの金価格は上昇しました。また、参考指数も設定時と比較して15.2%の上昇となり、当ファンドの投資対象である純金上場信託「金の果実」は、10.4%上昇しました。

◎参考指数との比較

参考指数とのカイ離は、△2.8%程度となりました。参考指数と当ファンドの投資対象である純金上場信託「金の果実」の値動きが必ずしも一致しないことなどに起因するものです。

<第1作成期（第1期～第2期：設定時～2011年6月10日）>
 基準価額は設定時に比べ4.7%の上昇となりました。参考指数とのカイ離は△2.3%程度となりました。

純金上場信託「金の果実」の組入比率は、作成期を通じて高水準を維持し、作成期末時点での組入比率は、99.0%となりました。

<第2作成期（第3期～第8期：2011年6月11日～2011年12月12日）>
 基準価額は作成期首に比べ5.4%の上昇となりました。参考指数とのカイ離は△0.8%程度となりました。

純金上場信託「金の果実」の組入比率は、作成期を通じて高水準を維持し、作成期末時点での組入比率は、98.3%となりました。

<第3作成期（第9期～第14期：2011年12月13日～2012年6月11日）>
 基準価額は作成期首に比べ3.1%の下落となりました。参考指数とのカイ離は△0.3%程度となりました。

純金上場信託「金の果実」の組入比率は、作成期を通じて高水準を維持し、作成期末時点での組入比率は、99.3%となりました。

<第4作成期（第15期～第20期：2012年6月12日～2012年12月10日）>

基準価額は作成期首に比べ9.8%の上昇となりました。参考指数とのカイ離は $\Delta 0.7\%$ 程度となりました。

純金上場信託「金の果実」の組入比率は、作成期を通じて高水準を維持し、作成期末時点での組入比率は、96.9%となりました。

<第5作成期（第21期～第26期：2012年12月11日～2013年6月10日）>

基準価額は作成期首に比べ3.5%の下落となりました。参考指数とのカイ離は $\Delta 0.3\%$ 程度となりました。

純金上場信託「金の果実」の組入比率は、作成期を通じて高水準を維持し、作成期末時点での組入比率は、98.0%となりました。

<第6作成期（第27期～第32期：2013年6月11日～2013年12月10日）>

基準価額は作成期首に比べ5.5%の下落となりました。参考指数とのカイ離は 0.1% 程度となりました。

純金上場信託「金の果実」の組入比率は、作成期を通じて高水準を維持し、作成期末時点での組入比率は、99.9%となりました。

<第7作成期（第33期～第38期：2013年12月11日～2014年6月10日）>

基準価額は作成期首に比べほぼ横ばいとなりました。参考指数とのカイ離は 0.1% 程度となりました。

純金上場信託「金の果実」の組入比率は、作成期を通じて高水準を維持し、作成期末時点での組入比率は、99.8%となりました。

<第8作成期（第39期～第44期：2014年6月11日～2014年12月10日）>

基準価額は作成期首に比べ13.5%の上昇となりました。参考指数とのカイ離は $\Delta 1.1\%$ 程度となりました。

純金上場信託「金の果実」の組入比率は、作成期を通じて高水準を維持し、作成期末時点での組入比率は、98.2%となりました。

<第9作成期（第45期～第50期：2014年12月11日～2015年6月10日）>

基準価額は作成期首に比べ0.9%の下落となりました。参考指数とのカイ離は 0.6% 程度となりました。

純金上場信託「金の果実」の組入比率は、作成期を通じて高水準を維持し、作成期末時点での組入比率は、99.7%となりました。

<第10作成期（第51期～第56期：2015年6月11日～信託終了日）>

償還価額は作成期首に比べ6.7%の下落となりました。参考指数とのカイ離は 1.6% 程度となりました。

純金上場信託「金の果実」の組入比率は、繰上償還に備えてポジションを解消するまでの期間、高水準を維持しました。ポジション解消後は、現金で保有しました。

<金産出国債券マザーファンド>

償還価額は設定時に比べ7.0%の上昇となりました。

- ・金産出国上位の中から、債券市場の規模、通貨・投資にかかる規制などを考慮のうえ、相対的に利回りが高い複数国に投資する商品性に基づき、南アフリカランド・オーストラリアドル・ロシアルーブル建ての公社債で運用を行いました。設定当初、南アフリカランド・オーストラリアドル建ての公社債で運用を開始しました。その後、ロシア国債については、2013年6月に、同年2月よりベルギーの国際決済機関ユーロクリア・バンクでの決済が開始され、当ファンドで同国債を組み入れることについて運用上の制約がなくなったため、利回り水準において相対的に優れるロシアルーブル建て国債に、オーストラリアドル建て国債から入れ替えました。
- ・通貨別資産配分は均等を基本とし、金産出国通貨建て（南アフリカランド・オーストラリアドル・ロシアルーブル）の公社債で高位組入を概ね維持しましたが、繰上償還が決定したため、2015年10月下旬に組入債券を全て売却し、信託終了日に向け、コール・ローン等での安定運用を行いました。組み入れにあたっては、利回り水準や流動性等を勘案し銘柄選択を行いました。
- ・南アフリカランドやロシアルーブルが下落したため、基準価額は下落しました。

<第1作成期（第1期～第2期：設定時～2011年6月10日）>

基準価額は設定時に比べ7.9%の上昇となりました。

<第2作成期（第3期～第8期：2011年6月11日～2011年12月12日）>

基準価額は作成期首に比べ7.2%の下落となりました。

<第3作成期（第9期～第14期：2011年12月13日～2012年6月11日）>

基準価額は作成期首に比べ6.0%の上昇となりました。

<第4作成期（第15期～第20期：2012年6月12日～2012年12月10日）>

基準価額は作成期首に比べ9.2%の上昇となりました。

<第5作成期（第21期～第26期：2012年12月11日～2013年6月10日）>

基準価額は作成期首に比べ5.0%の上昇となりました。

<第6作成期（第27期～第32期：2013年6月11日～2013年12月10日）>

基準価額は作成期首に比べ5.8%の上昇となりました。

<第7作成期（第33期～第38期：2013年12月11日～2014年6月10日）>

基準価額は作成期首に比べ1.9%の下落となりました。

<第8作成期（第39期～第44期：2014年6月11日～2014年12月10日）>

基準価額は作成期首に比べ13.3%の下落となりました。

<第9作成期（第45期～第50期：2014年12月11日～2015年6月10日）>

基準価額は作成期首に比べ8.9%の上昇となりました。

<第10作成期（第51期～第56期：2015年6月11日～信託終了日）>

償還価額は作成期首に比べ10.3%の下落となりました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドは、わが国の取引所における金価格の値動きを反映する上場信託ならびに金産出国通貨建ての公社債を実質的な主要投資対象とし、金価格の値動きをとらえつつ、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざしますが、特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。
- ・従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、第2期に500円、第20期に400円、第26期に100円、第55期は見送りとし、その他の期については20円ずつの分配とさせていただきます。

信託期間中、累計で2,020円の分配を行わせていただきました。

【分配原資の内訳】

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
	2015年6月11日～ 2015年7月10日	2015年7月11日～ 2015年8月10日	2015年8月11日～ 2015年9月10日	2015年9月11日～ 2015年10月13日	2015年10月14日～ 2015年11月10日
当期分配金	20	20	20	20	—
（対基準価額比率）	0.212%	0.220%	0.240%	0.223%	—%
当期の収益	20	20	20	20	—
当期の収益以外	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	2,170	2,180	2,187	2,206	2,217

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

償還価額

<三菱UFJ ゴールド・インカム・プラス・ファンド（毎月決算型）>

償還価額は8,719円67銭となりました。

信託期間中はご愛顧賜り、誠にありがとうございました。

○1万口当たりの費用明細

(2015年6月11日～2015年11月16日)

項 目	第51期～第56期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 44	% 0.493	(a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(21)	(0.235)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(21)	(0.235)	分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等の送付、購入後の説明・情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.023)	投資信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.025	(b) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(2)	(0.019)	外国での資産の保管等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.004)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	46	0.518	
作成期中の平均基準価額は、8,958円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まず。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2015年6月11日～2015年11月16日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第51期～第56期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
純金マザーファンド	千口 2,244	千円 2,569	千口 107,799	千円 122,034
金産出国債券マザーファンド	5,435	5,751	168,520	181,853

○利害関係人との取引状況等

(2015年6月11日～2015年11月16日)

利害関係人との取引状況

<三菱UFJ ゴールド・インカム・プラス・ファンド(毎月決算型)>

該当事項はございません。

<純金マザーファンド>

区 分	第51期～第56期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
受益証券発行信託の受益証券	百万円 1	百万円 1	% 100.0	百万円 120	百万円 23	% 19.2

平均保有割合 100.0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

<金産出国債券マザーファンド>

区 分	第51期～第56期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替直物取引	百万円 9	百万円 2	% 22.2	百万円 184	百万円 2	% 1.1

平均保有割合 100.0%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人の発行する有価証券等

<純金マザーファンド>

種 類	第51期～第56期		
	買 付 額	売 付 額	第56期末保有額
受益証券発行信託の受益証券	百万円 1	百万円 120	百万円 -

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券です。

○組入資産の明細

(2015年11月16日現在)

信託終了日現在、有価証券等の組入れはございません。

親投資信託残高

銘	柄	第50期末	
		口	数
純金マザーファンド			千口 105,554
金産出国債券マザーファンド			163,084

○投資信託財産の構成

(2015年11月16日現在)

項	目	償 還 時	
		評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他		千円 220,208	% 100.0
投資信託財産総額		220,208	100.0

○資産、負債、元本及び基準(償還)価額の状況

項 目	第51期末	第52期末	第53期末	第54期末	第55期末	償 還 時
	2015年7月10日現在	2015年8月10日現在	2015年9月10日現在	2015年10月13日現在	2015年11月10日現在	2015年11月16日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	312,294,744	287,543,742	253,172,182	260,895,361	222,548,797	220,208,817
コール・ローン等	1,011,413	947,129	944,674	811,729	706,478	220,208,460
純金マザーファンド(評価額)	124,231,095	116,791,580	101,157,311	97,733,793	86,738,189	—
金産出国債券マザーファンド(評価額)	184,536,167	169,153,857	150,537,814	147,429,092	133,852,670	—
未収入金	2,516,068	651,175	532,382	14,920,746	1,251,459	—
未収利息	1	1	1	1	1	357
(B) 負債	2,766,968	919,511	869,205	15,205,866	1,431,990	3,490,097
未払収益分配金	658,989	631,005	605,766	548,046	—	—
未払解約金	1,807,465	—	—	14,397,574	1,229,868	3,449,187
未払信託報酬	299,327	287,366	262,402	259,218	201,327	40,748
その他未払費用	1,187	1,140	1,037	1,028	795	162
(C) 純資産総額(A-B)	309,527,776	286,624,231	252,302,977	245,689,495	221,116,807	216,718,720
元本	329,494,582	315,502,588	302,883,334	274,023,051	253,495,160	248,540,122
次期繰越損益金	△ 19,966,806	△ 28,878,357	△ 50,580,357	△ 28,333,556	△ 32,378,353	—
償還差損金	—	—	—	—	—	△ 31,821,402
(D) 受益権総口数	329,494,582口	315,502,588口	302,883,334口	274,023,051口	253,495,160口	248,540,122口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,394円	9,085円	8,330円	8,966円	8,723円	—
1万口当たり償還価額(C/D)	—	—	—	—	—	8,719円67銭

○損益の状況

項 目	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期
	2015年6月11日～ 2015年7月10日	2015年7月11日～ 2015年8月10日	2015年8月11日～ 2015年9月10日	2015年9月11日～ 2015年10月13日	2015年10月14日～ 2015年11月10日	2015年11月11日～ 2015年11月16日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	34	33	29	34	26	384
受取利息	34	33	29	34	26	384
(B) 有価証券売買損益	△ 8,189,465	△ 8,838,923	△ 21,985,420	18,235,444	△ 5,965,261	△ 35,396
売買益	80,708	357,281	829,640	19,506,064	245,083	666
売買損	△ 8,270,173	△ 9,196,204	△ 22,815,060	△ 1,270,620	△ 6,210,344	△ 36,062
(C) 信託報酬等	△ 300,514	△ 288,506	△ 263,439	△ 260,246	△ 202,122	△ 40,910
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 8,489,945	△ 9,127,396	△ 22,248,830	17,975,232	△ 6,167,357	△ 75,922
(E) 前期繰越損益金	△ 8,498,632	△ 16,880,751	△ 25,544,158	△ 43,745,785	△ 24,326,944	△ 29,898,253
(F) 追加信託差損益金	△ 2,319,240	△ 2,239,205	△ 2,181,603	△ 2,014,957	△ 1,884,052	△ 1,847,227
(配当等相当額)	(11,185,156)	(10,770,397)	(10,404,697)	(9,461,574)	(8,792,236)	(8,620,784)
(売買損益相当額)	(△13,504,396)	(△13,009,602)	(△ 12,586,300)	(△11,476,531)	(△10,676,288)	(△10,468,011)
(G) 計(D+E+F)	△ 19,307,817	△ 28,247,352	△ 49,974,591	△ 27,785,510	△ 32,378,353	—
(H) 収益分配金	△ 658,989	△ 631,005	△ 605,766	△ 548,046	0	—
次期繰越損益金(G+H)	△ 19,966,806	△ 28,878,357	△ 50,580,357	△ 28,333,556	△ 32,378,353	—
償還差損金(D+E+F+H)	—	—	—	—	—	△ 31,821,402
追加信託差損益金	△ 2,319,240	△ 2,239,205	△ 2,181,603	△ 2,014,957	△ 1,884,052	—
(配当等相当額)	(11,185,796)	(10,771,318)	(10,405,502)	(9,462,238)	(8,792,647)	(—)
(売買損益相当額)	(△13,505,036)	(△13,010,523)	(△ 12,587,105)	(△11,477,195)	(△10,676,699)	(—)
分配準備積立金	60,338,247	58,024,762	55,847,954	51,005,587	47,414,948	—
繰越損益金	△ 77,985,813	△ 84,663,914	△ 104,246,708	△ 77,324,186	△ 77,909,249	—

(注) (B) 有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

＜注記事項＞

- ① 作成期首(前作成期末)元本額 333,408,561円
 作成期中追加設定元本額 1,458,085円
 作成期中一部解約元本額 86,326,524円
 また、1口当たり純資産額は、作成期末0.871967円です。
- ② 純資産総額が元本額を下回っており、その差額は31,821,402円です。
- ③ 分配金の計算過程

項 目	2015年6月11日～ 2015年7月10日	2015年7月11日～ 2015年8月10日	2015年8月11日～ 2015年9月10日	2015年9月11日～ 2015年10月13日	2015年10月14日～ 2015年11月10日
費用控除後の配当等収益額	953,410円	939,315円	814,044円	1,074,804円	269,190円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	—円	—円	—円	—円	—円
収益調整金額	11,185,796円	10,771,318円	10,405,502円	9,462,238円	8,792,647円
分配準備積立金額	60,043,826円	57,716,452円	55,639,676円	50,478,829円	47,145,758円
当ファンドの分配対象収益額	72,183,032円	69,427,085円	66,859,222円	61,015,871円	56,207,595円
1万口当たり収益分配対象額	2,190円	2,200円	2,207円	2,226円	2,217円
1万口当たり分配金額	20円	20円	20円	20円	—円
収益分配金金額	658,989円	631,005円	605,766円	548,046円	—円

○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2011年3月18日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2015年11月16日		資産総額	220,208,817円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	3,490,097円
				純資産総額	216,718,720円
受益権口数	9,748,735,545口	248,540,122口	△9,500,195,423口	受益権口数	248,540,122口
元本額	9,748,735,545円	248,540,122円	△9,500,195,423円	1万円当たり償還金	8,719円67銭
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万円当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	11,224,808,642円	11,829,037,897円	10,538円	20円	0.2%
第2期	11,074,186,350	11,197,282,977	10,111	500	5.0
第3期	11,477,987,552	11,717,451,683	10,209	20	0.2
第4期	11,454,359,707	11,584,267,217	10,113	20	0.2
第5期	10,752,373,373	11,246,066,251	10,459	20	0.2
第6期	7,080,308,084	6,771,120,380	9,563	20	0.2
第7期	5,939,792,946	5,839,129,001	9,831	20	0.2
第8期	5,020,177,955	4,886,191,540	9,733	20	0.2
第9期	4,347,966,920	4,106,867,669	9,445	20	0.2
第10期	3,673,921,767	3,720,605,214	10,127	20	0.2
第11期	2,911,978,941	3,089,585,074	10,610	20	0.2
第12期	2,204,912,442	2,255,956,952	10,232	20	0.2
第13期	1,998,309,153	1,969,960,891	9,858	20	0.2
第14期	1,853,410,394	1,815,955,544	9,798	20	0.2
第15期	1,860,396,646	1,840,908,144	9,895	20	0.2
第16期	1,795,080,590	1,800,104,550	10,028	20	0.2
第17期	1,704,186,025	1,739,245,894	10,206	20	0.2
第18期	1,566,234,404	1,559,226,112	9,955	20	0.2
第19期	1,485,087,666	1,511,139,077	10,175	20	0.2
第20期	1,377,245,463	1,399,152,816	10,159	400	4.0
第21期	1,224,221,030	1,314,763,758	10,740	20	0.2
第22期	1,106,445,136	1,237,825,859	11,187	20	0.2
第23期	978,346,749	1,089,369,311	11,135	20	0.2
第24期	899,428,416	1,059,204,176	11,776	20	0.2
第25期	865,162,192	997,850,146	11,534	20	0.2
第26期	804,912,039	814,141,237	10,115	100	1.0
第27期	771,155,803	768,957,377	9,971	20	0.2
第28期	783,070,513	770,477,561	9,839	20	0.2
第29期	742,310,543	755,000,978	10,171	20	0.2
第30期	714,204,662	710,525,253	9,948	20	0.2

三菱UFJ ゴールド・インカム・プラス・ファンド(毎月決算型)

計 算 期	元 本 額	純資産総額	基準価額	1 万口当たり分配金	
				金 額	分 配 率
第31期	685,640,748円	674,460,649円	9,837円	20円	0.2%
第32期	665,074,850	669,724,659	10,070	20	0.2
第33期	604,661,525	606,883,648	10,037	20	0.2
第34期	508,564,205	489,701,856	9,629	20	0.2
第35期	506,703,009	494,373,538	9,757	20	0.2
第36期	490,553,333	482,157,298	9,829	20	0.2
第37期	470,910,551	461,469,797	9,800	20	0.2
第38期	464,525,028	455,726,830	9,811	20	0.2
第39期	458,329,164	455,997,841	9,949	20	0.2
第40期	447,453,915	430,001,425	9,610	20	0.2
第41期	412,718,719	403,253,336	9,771	20	0.2
第42期	389,489,252	371,648,854	9,542	20	0.2
第43期	384,529,477	362,600,730	9,430	20	0.2
第44期	371,713,253	346,849,965	9,331	20	0.2
第45期	373,609,063	326,648,790	8,743	20	0.2
第46期	364,346,235	327,411,863	8,986	20	0.2
第47期	360,516,469	326,125,604	9,046	20	0.2
第48期	348,065,684	342,139,217	9,830	20	0.2
第49期	345,008,169	339,938,323	9,853	20	0.2
第50期	333,408,561	322,462,157	9,672	20	0.2
第51期	329,494,582	309,527,776	9,394	20	0.2
第52期	315,502,588	286,624,231	9,085	20	0.2
第53期	302,883,334	252,302,977	8,330	20	0.2
第54期	274,023,051	245,689,495	8,966	20	0.2
第55期	253,495,160	221,116,807	8,723	0	0.0

○分配金のお知らせ

	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
1万円当たり分配金(税込み)	20円	20円	20円	20円	0円

◆分配金は各決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

◆課税上の取り扱い

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率で源泉徴収(申告不要)されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※少額投資非課税制度「愛称：NISA(ニーサ)」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

○償還金のお知らせ

1万円当たり償還金(税込み)	8,719円67銭
----------------	-----------

◆償還金は償還日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆課税上の取り扱い

- ・個人受益者の場合、償還価額から取得費(申込手数料(税込)を含みます。)を控除した利益(譲渡益)が譲渡所得等として課税され、原則として、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率による申告分離課税が適用されます。
- ・特定口座(源泉徴収選択口座)を利用する場合、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

[お知らせ]

- ①2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三菱UFJ国際投信株式会社へ変更し、信託約款に所要の変更を行いました。(2015年7月1日)
- ②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%(法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。))の税率が適用されます。
- ③当ファンドは、受益権の口数が投資信託約款に定められた口数を下回っており、投資信託契約を解約することが受益者にとって有利であると認められるため、信託約款の規定に基づき、信託を終了しました。(2015年11月16日)

純金マザーファンド

《繰上償還(第5期)》信託終了日2015年11月13日

[計算期間：2014年12月11日～2015年11月13日]

「純金マザーファンド」は、この度、約款の規定に基づき、11月13日に繰り上げて償還させていただきました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第5期の運用状況をご報告申し上げます。

運用方針	主として純金上場信託（現物国内保管型）受益証券への投資を通じて、わが国の取引所における金価格の値動きをとらえることをめざします。純金上場信託（現物国内保管型）受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。
主要運用対象	純金上場信託（現物国内保管型）受益証券を主要投資対象とします。
主な組入制限	外貨建資産への投資は行いません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		参考指数（指標価格）		受益証券の 発行信託の 受益証券比率	純資産額
	期騰落	中率	期騰落	中率		
(設定日)	円 銭	%		%	%	百万円
2011年3月18日	10,000	—	3,717.00	—	—	3,875
1期(2011年12月12日)	11,035	10.4	4,222.00	13.6	98.3	1,933
2期(2012年12月10日)	11,750	6.5	4,531.00	7.3	96.9	554
3期(2013年12月10日)	10,713	△ 8.8	4,140.00	△ 8.6	99.9	265
4期(2014年12月10日)	12,160	13.5	4,741.00	14.5	98.2	146
(償還時)	(償還価額)					
5期(2015年11月13日)	11,239.05	△ 7.6	4,283.00	△ 9.7	—	86

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドの参考指数（指標価格）は、東京商品取引所における金1グラム当たりの先物価格をもとに現在価値として三菱UFJ信託銀行が算出した理論価格です。参考指数（指標価格）は、日本における金の店頭小売・買取価格や海外で公表される取引価格とは異なります。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		参 考 指 数		受 益 証 券 受 益 証 券 比 率
	円 銭	騰 落 率	指 標 価 格	騰 落 率	
(期首) 2014年12月10日	12,160	—	4,741.00	—	98.2
12月末	11,875	△2.3	4,603.00	△2.9	99.7
2015年1月末	12,352	1.6	4,788.00	1.0	99.7
2月末	12,039	△1.0	4,646.00	△2.0	99.7
3月末	11,817	△2.8	4,575.00	△3.5	99.7
4月末	11,898	△2.2	4,603.00	△2.9	99.8
5月末	12,214	0.4	4,740.00	△0.0	99.6
6月末	11,979	△1.5	4,642.00	△2.1	99.8
7月末	11,191	△8.0	4,333.00	△8.6	99.8
8月末	11,437	△5.9	4,422.00	△6.7	99.2
9月末	11,235	△7.6	4,353.00	△8.2	99.8
10月末	11,561	△4.9	4,468.00	△5.8	98.8
(償還時) 2015年11月13日	(償還価額) 11,239.05	△7.6	4,283.00	△9.7	—

(注) 騰落率は期首比。

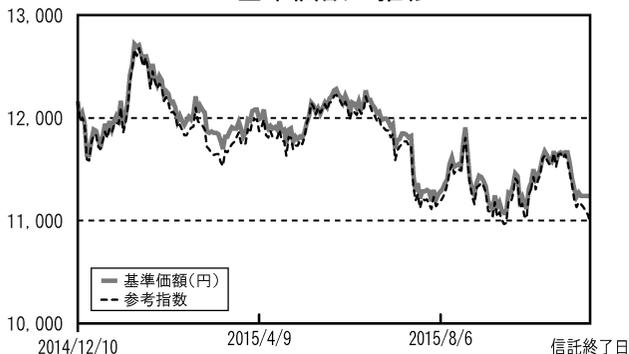
○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

償還価額は期首に比べ7.6%の下落となりました。

基準価額の推移



(注) 参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●投資環境について

◎金市況

- ・期首から2015年1月中旬にかけては、ギリシャでの政治リスクの高まりや世界的な景気減速懸念からリスク回避の動きが強まり、安全資産である金の需要が高まったことなどを背景に金価格は上昇しました。
- ・1月中旬以降、信託終了日までは、米国の経済指標改善に伴う金利上昇懸念や量的緩和政策の段階的な縮小によって金需要が減少し、金価格は下落しました。

◎為替市況

- ・一時的に株式市場の混乱などによって円高が進む局面はあったものの、日銀が積極的な量的緩和政策を継続したことや米国における政策金利引き上げ観測により日米の金利差が拡大するとの期待を背景に概ね円安・ドル高基調が維持されました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

純金上場信託「金の果实」の組入比率は、繰上償還に備えてポジションを解消するまでの期間、高水準を維持しました。ポジション解消後は、現金で保有しました。

◎参考指数との比較

円安・ドル高の進展はあったものの、金価格の下落がマイナスに影響し、円ベースの金価格は下落しました。また、参考指数も期首と比較して9.7%の下落となり、当ファンドの投資対象である純金上場信託「金の果实」は、9.1%下落しました。

参考指数とのカイ離は、2.1%程度となりました。参考指数と当ファンドの投資対象である純金上場信託「金の果实」の値動きが必ずしも一致しないことや繰上償還に備えて信託終了日前にポジションを解消したことなどに起因するものです。

●償還価額

償還価額は、11,239円05銭となりました。

○1万口当たりの費用明細

(2014年12月11日～2015年11月13日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2014年12月11日～2015年11月13日)

受益証券発行信託の受益証券

銘	柄	買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国内	純金上場信託（現物国内保管型）	千口 5	千円 23,493	千口 36	千円 158,435

(注) 金額は受渡代金。

○利害関係人との取引状況等

(2014年12月11日～2015年11月13日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
受益証券発行信託の受益証券	百万円 23	百万円 17	% 73.9	百万円 158	百万円 43	% 27.2

利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
受益証券発行信託の受益証券	百万円 23	百万円 158	百万円 —

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券です。

○組入資産の明細

(2015年11月13日現在)

信託終了日現在、有価証券等の組入れはございません。

国内受益証券発行信託の受益証券

銘	柄	期首(前期末)	
		口 数	金 額
純金上場信託（現物国内保管型）		千口 31	
合 計	口 数 銘 柄 数	千口 31	金 額 1

○投資信託財産の構成

(2015年11月13日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 86,738	100.0 %
投資信託財産総額	86,738	100.0

○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2015年11月13日現在)

項 目	償 還 時
	円
(A) 資産	86,738,600
コール・ローン等	86,738,171
未収利息	429
(B) 負債	0
(C) 純資産総額(A-B)	86,738,600
元本	77,176,074
償還差益金	9,562,526
(D) 受益権総口数	77,176,074口
1万口当たり償還価額(C/D)	11,239円05銭

<注記事項>

- ①期首元本額 120,325,605円
 期中追加設定元本額 20,936,767円
 期中一部解約元本額 64,086,298円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.123905円です。

- ②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)
 三菱UFJ ゴールド・インカム・プラス・ファンド(毎月決算型) 77,176,074円

[お 知 ら せ]

- ①2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三菱UFJ国際投信株式会社へ変更し、信託約款に所要の変更を行いました。(2015年7月1日)
 ②当ファンドは、この信託の受益証券を投資対象とすることを信託約款において定めるすべての証券投資信託が、その信託を終了させることとなったため、信託約款の規定に基づき、信託を終了しました。(2015年11月13日)

○損益の状況 (2014年12月11日～2015年11月13日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	1,042
受取利息	1,042
(B) 有価証券売買損益	△ 8,690,320
売買益	327,777
売買損	△ 9,018,097
(C) 当期損益金(A+B)	△ 8,689,278
(D) 前期繰越損益金	25,986,918
(E) 追加信託差損益金	3,812,552
(F) 解約差損益金	△11,547,666
償還差益金(C+D+E+F)	9,562,526

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みません。
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

金産出国債券マザーファンド

《繰上償還(第5期)》信託終了日2015年11月13日

〔計算期間：2014年12月11日～2015年11月13日〕

「金産出国債券マザーファンド」は、この度、約款の規定に基づき、11月13日に繰り上げて償還させていただきます。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第5期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として金産出国通貨建ての公社債を主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざします。金産出国の中から、債券市場の規模、通貨・投資に係る規制等を勘案のうえ、金利水準が高い国を複数選定します。金産出国の通貨別資産配分は均等を基本とします。また、ポートフォリオ構築にあたっては、各国毎に当該国の国債市場全体のデュレーションを参考にします。投資対象とする債券は、当該国通貨建ての国債、政府保証債、政府機関債、地方債および国際機関債とします。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。ただし、組入比率の調整等を目的として為替予約取引等を活用する場合があります。
主 要 運 用 対 象	金産出国通貨建ての公社債を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 騰 落 中 率	債 券	債 券	純 資 産 額
			組 入 比 率	先 物 比 率	
(設定日)	円 銭	%	%	%	百万円
2011年3月18日	10,000	—	—	—	5,850
1期(2011年12月12日)	10,014	0.1	95.9	—	2,941
2期(2012年12月10日)	11,593	15.8	92.5	—	840
3期(2013年12月10日)	12,877	11.1	93.1	—	402
4期(2014年12月10日)	10,954	△14.9	93.0	—	199
(償還時)	(償還価額)				
5期(2015年11月13日)	10,695.97	△2.4	—	—	128

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドは、主として金産出国通貨建ての公社債を主要投資対象とし、利子収益の確保および値上がり益の獲得をめざしますが、特定の指数を上回るまたは運動をめざした運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	券 率
		騰	落			
(期 首) 2014年12月10日	円 銭 10,954		% -			% 93.0
12月末	10,280	△	6.2			89.7
2015年1月末	9,839	△	10.2			94.6
2月末	10,723	△	2.1			94.7
3月末	11,106		1.4			94.5
4月末	12,248		11.8			92.3
5月末	12,399		13.2			92.5
6月末	11,789		7.6			93.1
7月末	11,569		5.6			94.2
8月末	10,471	△	4.4			91.2
9月末	10,158	△	7.3			93.9
10月末	10,700	△	2.3			-
(償還時) 2015年11月13日	(償還価額) 10,695.97		△ 2.4			-

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

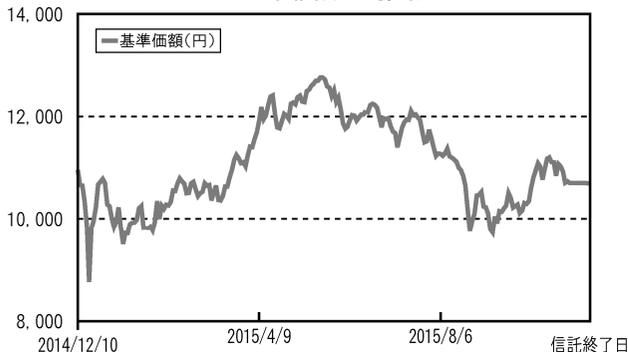
○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

償還価額は期首に比べ2.4%の下落となりました。

基準価額の推移



●投資環境について

◎債券市況

- ・南アフリカの金利は上昇（債券価格は下落）しました。中国をはじめとする新興国の景気減速懸念から世界的に株式市場が軟調に推移するなか、投資家のリスク回避姿勢が高まり、南アフリカなどの新興国債券は概ね売られ金利は上昇する展開となりました。
- ・一方、ロシアの金利は低下しました。ロシア中央銀行が政策金利を引き下げたことに加えて、主要輸出品である原油の価格が低迷していることや、生産関連などの指標が弱いことなどが金利低下の材料となった模様です。

◎為替市況

- ・南アフリカランドおよびロシアルーブルは対円で下落（円高）しました。
- ・新興国の景気減速懸念や米国金融政策への不透明感などから、円が相対的に主要通貨に対して買われる展開となりました。
- ・ロシアルーブルは、2014年末にかけては地政

学的リスクなどから主要国通貨に対して大幅に下落しましたが、ウクライナでの停戦合意や原油価格の下げ止まりを背景に、2015年5月にかけては大幅に上昇しました。その後、信託終了日にかけては新興国の景気減速懸念などを受けてロシアルーブルは下落し、期を通じてみると対円で下落しました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・金産出国上位の中から、債券市場の規模、通貨・投資にかかる規制などを考慮のうえ、相対的に利回りが高い複数国に投資する商品性に基つき、利回りが高いと判断した南アフリカ・ロシアを引き続き選定し、南アフリカランド・ロシアルーブル建ての公社債で運用を行いました。
- ・通貨別資産配分は均等を基本とし、金産出国通貨建て（南アフリカランド・ロシアルーブル）の公社債で高位組入を維持しましたが、繰上償還が決定したため、2015年10月下旬に組入債券を全て売却し、信託終了日に向け、コール・ローン等での安定運用を行いました。組み入れにあたっては、利回り水準や流動性等を勘案し銘柄選択を行いました。
- ・当期は、南アフリカランドやロシアルーブルが対円で下落したため、基準価額は下落しました。

●償還価額

償還価額は、10,695円97銭となりました。

○1万口当たりの費用明細

(2014年12月11日～2015年11月13日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円 11	% 0.099	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(10)	(0.093)	外国での資産の保管等に要する費用
（ そ の 他 ）	(1)	(0.006)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	11	0.099	
期中の平均基準価額は、11,025円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2014年12月11日～2015年11月13日)

公社債

			買 付 額	売 付 額
外 国	ロシア	国債証券	千ロシアルーブル 19,373	千ロシアルーブル 65,990
	南アフリカ	国債証券	千南アフリカランド 1,906	千南アフリカランド 10,982

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

○利害関係人との取引状況等

(2014年12月11日～2015年11月13日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人との取引状況B	B/A	%	うち利害関係人との取引状況D	D/C	%
為替直物取引	百万円 51	百万円 2	3.9	百万円 247	百万円 2	0.8

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行です。

○組入資産の明細

(2015年11月13日現在)

信託終了日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2015年11月13日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	128,816	100.0
投資信託財産総額	128,816	100.0

○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2015年11月13日現在)

○損益の状況 (2014年12月11日～2015年11月13日)

項 目	償 還 時
	円
(A) 資産	128,816,185
コール・ローン等	128,815,548
未収利息	637
(B) 負債	0
(C) 純資産総額(A-B)	128,816,185
元本	120,434,312
償還差益金	8,381,873
(D) 受益権総口数	120,434,312口
1万円当たり償還価額(C/D)	10,695円97銭

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	12,501,230
受取利息	12,501,230
(B) 有価証券売買損益	△12,102,185
売買益	15,823,153
売買損	△27,925,338
(C) 保管費用等	△ 180,061
(D) 当期損益金(A+B+C)	218,984
(E) 前期繰越損益金	17,389,257
(F) 追加信託差損益金	261,379
(G) 解約差損益金	△ 9,487,747
償還差益金(D+E+F+G)	8,381,873

<注記事項>

- ①期首元本額 182,315,087円
 期中追加設定元本額 22,373,449円
 期中一部解約元本額 84,254,224円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.069597円です。

- ②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)
 三菱UFJ ゴールド・インカム・プラス・ファンド(毎月決算型) 120,434,312円

[お知らせ]

- ①2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三菱UFJ国際投信株式会社へ変更し、信託約款に所要の変更を行いました。(2015年7月1日)
 ②当ファンドは、この信託の受益証券を投資対象とすることを信託約款において定めるすべての証券投資信託が、その信託を終了させることとなったため、信託約款の規定に基づき、信託を終了しました。(2015年11月13日)